

キハダ 中西部太平洋

Yellowfin Tuna, *Thunnus albacares*



管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)、太平洋共同体事務局 (SPC)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 2.0 m・200 kg
- 寿命：7～10 歳（18 歳の可能性もある）
- 成熟開始年齢：3 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：分布域に等しい
- 食性：魚類・甲殻類・頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類、海産哺乳類

利用・用途

刺身、缶詰、練り製品の原料

漁業の特徴

はえ縄、まき網及び竿釣りが主な漁業である。はえ縄は 1950 年代にキハダを主要対象種として発展したが、1970 年代半ばにメバチを主要な対象とするようになった。まき網は、カツオを主対象としつつ、キハダも漁獲する漁業として 1970 年代半ばに始まった。1980 年代までは、はえ縄が漁獲の半分以上を占めていたが、その後、まき網による漁獲量が増加した。フィリピン・インドネシアでは小型まき網、ひき網、竿釣り、手釣り等の漁業が小規模かつ多様で、漁獲量も大きく、増加傾向にある。

漁獲の動向

2019 年の総漁獲量は 69.6 万トン（予備集計）で、過去 3 番目に高い値であった。内訳は、まき網が 50%、はえ縄が 15%、竿釣りが 3%、そのほか 32%である。そのほかには、フィリピン及びインドネシアにおける多様な漁業（ひき縄、小型のまき網、刺網、手釣り等）が含まれている。

資源状態

資源評価は 2020 年に SPC の科学専門グループにより行われた。最大持続生産量 (MSY) は 109.1 万トン (72 モデルの中央値) と推定され、2019 年の漁獲量より大きい。2015 年から 2018 年の平均の産卵資源量のレベル ($SB_{2015-2018}/SB_{F=0}$) は 0.58 (80%確率範囲は 0.51～0.64) であり、限界管理基準値 (Limit Reference Point ; $SB/SB_{F=0}=0.20$) を上回っている。また、従来、過剰漁獲能力の基準と見なされてきた F_{MSY} で判断した場合、2014 年から 2017 年の平均漁獲努力は 1.0 を下回った ($F_{2014-2017}/F_{MSY}=0.36$) (80%確率範囲は 0.27～0.47)。資源は乱獲状態の可能性が低く、漁獲の強さが過剰でない可能性が高い。

管理方策

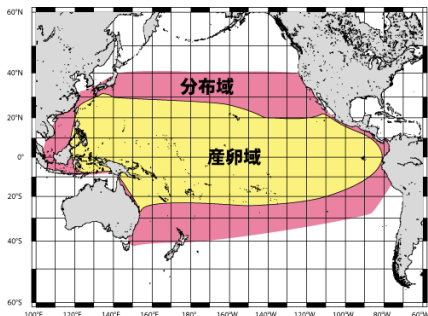
まき網 (熱帯水域)

- ・集魚装置 (FAD) 操業禁止 3 か月 (7～9 月) + 公海 FAD 操業禁止追加 2 か月 (4～5 月もしくは 11～12 月)
- ・FAD 操業禁止は、本船以外の船 (tender vessel 等) にも適用される
- ・公海操業日数制限は、先進国に加え島嶼国がチャーターする船にも適用
- ・FAD 数規制 (1 隻あたり常時 350 基以下) : 全条約水域に適用
- ・公海操業日数の制限
- ・島嶼国以外のメンバーの大型船隻数制限

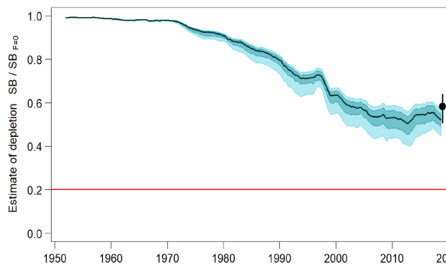
はえ縄

- ・メバチの漁獲量制限 (我が国の漁獲枠は 18,265 トン (メバチの漁獲量制限であるが、はえ縄漁業ではキハダの漁獲にも影響が考えられるので記載する。))

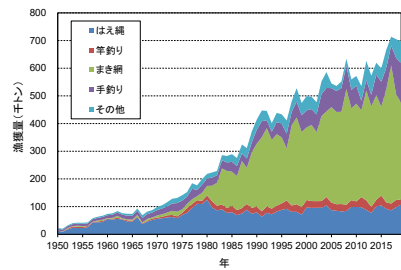
キハダ（中西部太平洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	中位
資源動向	減少
世界の漁獲量（最近5年間）	60.0万～71.4万トン 最近（2019）年：69.6万トン 平均：67.6万トン（2015～2019年）
我が国の漁獲量（最近5年間）	5.0万～5.8万トン 最近（2019）年：5.8万トン 平均：5.4万トン（2015～2019年）
管理目標	検討中
資源評価の方法	統合モデル（Multifan-CL）
資源の状態	$SB_{2015-2018} / SB_{F=0} = 0.58$ 、 $F_{2014-2017} / F_{MSY} = 0.36$
管理措置	まき網（熱帯水域） <ul style="list-style-type: none"> ・FAD 操業禁止3か月（7～9月）+ 公海FAD 操業禁止追加2か月（4～5月もしくは11～12月） ・FAD 操業禁止は、本船以外の船（tender vessel等）にも適用される ・公海操業日数制限は、先進国に加え島嶼国がチャーターする船にも適用 ・FAD 数規制（1隻あたり常時350基以下）：全条約水域に適用 ・公海操業日数の制限 ・島嶼国以外のメンバーの大型船隻数制限 はえ縄 <ul style="list-style-type: none"> ・メバチの漁獲量制限（我が国の漁獲枠は18,265トン）
最新の資源評価年	2020年
次回の資源評価年	2023年



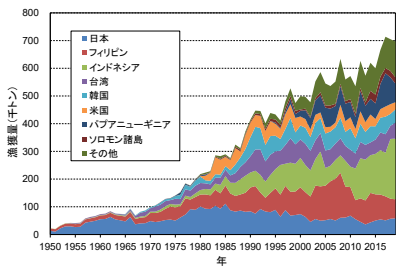
太平洋におけるキハダの分布



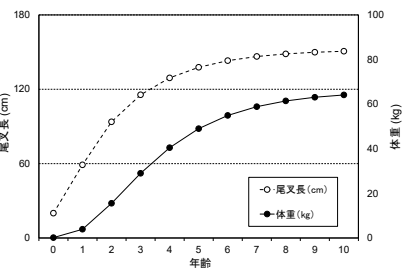
中西部太平洋におけるキハダの Spawning Biomass ratio の推移（1952～2018年）
 漁業がないと仮定した状態の産卵資源量を1.0としたときの、1952～2018年の産卵資源量の割合。太い青線は72モデルの中央値、濃い青緑色の影、薄い青緑色の影は、それぞれ50パーセント、80パーセントの範囲を示す。最も外側の青丸は過去3カ年（2015～2018年）の中央値、垂直のバーは80パーセントを示す。



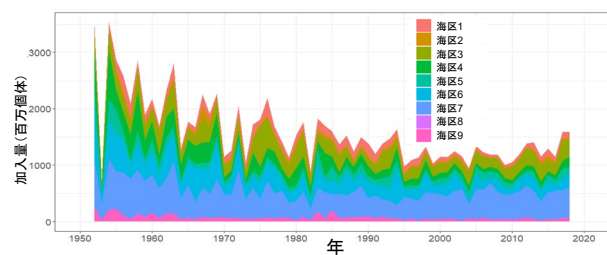
中西部太平洋におけるキハダの漁法別漁獲量年変化（1950～2019年）



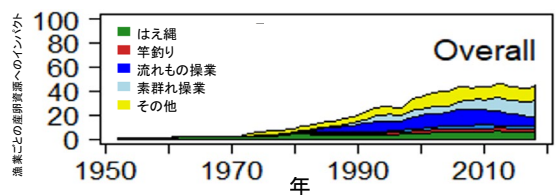
中西部太平洋におけるキハダの国別漁獲量年変化（1950～2019年）



中西部太平洋におけるキハダの成長曲線



中西部太平洋におけるキハダの加入量（海域ごとの加入量）（1952～2018年）



中西部太平洋における漁業ごとのキハダ産卵資源へのインパクト（1952～2018年）
 縦軸は漁業が資源を減少させた割合（%）を示したもの。はえ縄（緑）、竿釣り（赤）、まき網流れもの操業（青）、まき網素群れ操業（水色）、その他（黄）を表す。